

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和8年度 第2回入間市障害者福祉審議会
開 催 日 時	令和8年7月14日(火) 午後3時00分 開会 / 午後4時30分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 B棟4階 大会議室
議 長 氏 名	今井 英雄
出席委員(者)氏名	今井 英雄 荻野 亨 黒古 次男 磯田 英穂 田邊 仁 川野 志保 森田 秀子 岡内 藤雄 田中 智子 金平 里美 西尾 敦子 富田 千代 粕谷 浩史 岩崎 雅美
欠席委員(者)氏名	横田 修
説明者の職氏名	障害者支援課 副主幹 市村 正子
会 議 次 第 (公開)	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 次期障害者計画について ① 障害者福祉審議会地域部会検討報告 ② 障害者福祉審議会こども部会検討報告 ③ 障害者福祉審議会啓発部会検討報告 4 その他 (1) 令和7年度障害者就労施設等からの調達実績等について (報告) (2) 次回の入間市障害者福祉審議会について 5 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	1 令和8年度 第2回入間市障害者福祉審議会 次第 2 地域部会報告書 3 こども部会報告書 4 啓発部会報告書 5 令和7年度障害者就労施設等からの調達実績
事務局職員職氏名	福祉部長 栗原 康友 福祉部次長 小笠原 昌平 障害者支援課長 下村 佳司 副主幹 市村 正子 副主幹 木戸 里江 主任 宇野 里実
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過)

○ 議題

- (1) 次期障害者計画について
アンケート結果について事務局より説明。
次期障がい者福祉プランについての部会報告について各部会長から報告。
地域部会について（黒古委員）
こども部会について（磯田委員）
啓発部会について（田邊委員）

○ その他

- (1) 令和7年度障害者就労施設等からの調達実績等について（報告）
- (2) 次回の入間市障害者福祉審議会について
（事務局より説明）

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
議長 黒古委員	(委員より発言が行われた部分のみ記述する) 次期障害者計画について、各部会長からこれまでの検討事項についてご報告いただく。地域部会から報告をお願いしたい。 (地域部会より資料2に基づき説明) 地域部会では、障がいのある方の地域生活について、医療モデルではなく社会モデルの考え方に基づき施策を検討した。 施策1「地域生活を支える」について。主な取組のうち「障がい者の地域生活支援の充実」では福祉サービス人材の確保、「保健・医療・福祉関係機関の連携強化」では精神障がいに加え、全身性障がい、強度行動障がい及び医療的ケア者を含めた地域包括ネットワークとして位置付ける。 「自立生活援助サービス体制の整備」では住宅に関する視点を追加し、「日中活動の場の整備」では医療的ケア者、強度行動障がい、発達障がい及び難病者の日中活動の場についても検討する。 施策2「いざという時のための支援体制をつくる」について。日常における安心・安全な地域生活の推進を位置付け、「健康で安全な生活の推進」として健康診断、予防接種、介護予防及びレスパイトサービスを追加するほか、「地域生活支援拠点事業の推進」及び「障がい者の意思決定支援・情報アクセシビリティ」を追加したい。 施策3「災害時に安心して避難生活を送るために」について。災害対策に特化した内容とし、避難行動要支援者避難支援制度の周知、名簿登録及び個別避難計画の作成を推進してほしい。また、地域の支援体制や福祉避難所の運営体制の整備、避難訓練、災害時に必要な投薬等の備えを進めるとともに、当事者の意見を踏まえた個々のニーズの把握が重要である。 施策4「身近で利用しやすい相談のしくみづくり」について。相談支援体制の充実に向け、アウトリーチの実施や相談窓口の周知・広報を強化する必要がある。 施策6「はたらくを支援する」について。障がい者就労支援センターりぼんの利用者増加に対し支援体制の整備が課題である。また、障がい者雇用率未達成企業への支援や法定雇用率達成に向けた取組を進める必要がある。さらに、市庁内事務センターの期間雇用や教育委員会の法定雇用率未達成も課題として挙げられた。 まずは地域部会について意見はあるか。
議長	

発 言 者	発 言 内 容
岡内委員	避難行動要支援者数と個別避難計画の作成希望者数にかい離があるため、個別避難計画の作成目標を設定する必要がある。また、防災訓練への障がい者の参加が少ないことから、各障がい者団体へ避難訓練の重要性を周知する必要がある。
森田委員	市民安全課から、避難支援には支援者の氏名や同意書の提出が必要との通知があったが、支援者の同意を得ることは容易ではなく、通知の内容にも違和感がある。
磯田委員	施策2及び施策3はいずれも災害対策であることから、施策2に統一して整理してもよいのではないかと意見があった。また、福祉避難所の認知度が低いことから、周知方法や対応策を次期障がい者福祉プランに盛り込む必要がある。
粕谷委員	個別避難計画の支援者は、現在は団体による同意も可能となっている。登録者の増加に向けた市の取組について、事務局に確認していただきたい。
小笠原次長	個別避難計画については、支援者の確保が難しいことから同意を求める範囲を広げ、名簿登録者や計画作成者の増加に取り組んでいる。今年度は対象者へ制度周知と併せて名簿登録及び計画作成に関する通知を発送し、昨年度は相談支援専門員への周知・説明も実施した。現時点で大きな成果には至っていないが、今後も継続して取り組む。
岡内委員	避難行動要支援者数と個別計画希望者数のかい離について、具体的に民生委員等に対して説明会は実施しているのか。
小笠原次長	約5年前から、避難行動要支援者名簿や個別避難計画の作成に向け、自治会や地域包括支援センター、社会福祉協議会等へ協力を依頼し、説明会を実施してきた。当初は自治会の理解を得ることが難しかったが、災害時には地域の協力体制が不可欠であるとの考えから取組を進めている。現在も継続して説明会を実施していると認識している。
議長	この件については次回、現在の状況について報告をお願いしたい。
西尾委員	地域移行支援及び地域定着支援はニーズが低いことから、項目を省いてもよいのではないかと。また、施策1は支援体制の整備、施策2は地域とのつながりや地域での暮らし、施策3は災害対策として整理することで、それぞれの役割が明確になるため、現行の施策構成を維持することが望ましい。
富田委員	民生委員として避難支援体制への協力を求められているが、具体的な役

発 言 者	発 言 内 容
磯田委員	割や対応方法が示されていないため、市から具体的な取組内容を示していただきたい。また、自治会との連携体制を構築することで、日頃の見守り活動や災害時の支援が進めやすくなる。 地区防災計画は自治会等のボランティアによる作成が求められており、大きな課題となっている。計画作成に当たっては、地域の負担とのバランスを考慮し、目指す方向性を明確にしながら進める必要がある。
議長	本件については、事務局で検討していただきたい。地域防災計画や個別避難計画は、阪神・淡路大震災において救助された方の多くが地域住民の助けによるものであったことを踏まえ、地域の支え合いを重視して現在まで取組が進められている。
岩崎委員	計画作成は進捗が遅れているため、今後は取組を加速させる必要がある。また、現行の障がい者福祉プランは構成が分かりづらく、意見が錯綜する要因となっているのではないかと。基本方針や施策は示されているものの、目標値や具体的な取組内容が十分に整理されておらず、支援の方向性が分かりにくい。一方で、施策ごとに目標、取組内容、実施状況、改善策まで整理されている箇所については、計画のあり方として参考になる。
議長	計画全体の構成に関わるため、事務局は策定支援者から構成について助言を受け、検討していただきたい。また、地域部会の施策2及び施策6についても可能な限り事務局で検討を進めていただきたい。障がい者雇用率の未達成は以前からの課題であるため、引き続き積極的に取り組む必要がある。
磯田委員	(こども部会より資料3に基づき説明) こどもの障がいについて、障がい児の位置付けが難しく、相談しやすい環境づくりが必要である。市公式LINEの相談ツールについても、子育て項目に「障がい」の選択肢がなく、適切な相談窓口につながりにくいいため、改善を検討する必要がある。また、計画全体について、評価と内容のバランスが分かりづらい。 施策5「障がい児相談支援の実施」について。相談関係の構築が十分でないケースも含め、状況を把握し、必要な支援につなげる必要がある。 施策7「子どもの育ちをみんなで一緒に支えていける支援体制の充実を図る」について。児童発達支援センターの名称では対象が分かりにくいいため、「すべての」などの表現を加え、対象を明確にしてはどうか。また、訪問支援体制については、専門的な知識や技術を持つ者による支援である

発 言 者	発 言 内 容
田邊委員	ことが分かるよう、具体的に記載する必要がある。 施策8「一人ひとりが違うことの素晴らしさを共に学ぶ保育・教育・福祉に取り組む」について。インクルーシブ教育の推進に向け、子どもたちへの理解促進や啓発の取組を計画に盛り込むとともに、心のバリアフリー推進における図書整備について、具体的な検証を行う必要がある。 (啓発部会より資料4に基づき説明) 資料3については内容が網羅されており、次期計画の構成も現行計画から大きな変更はなく、啓発部会としても変更しない方向である。ただし、アンケート結果の数値やグラフについては、より分かりやすく伝わるよう表記方法を工夫してほしい。 施策10「福祉ボランティア活動を支援する」について。障がい者自身もボランティア活動を行うことができることが分かるよう、表現を見直す。 施策11「障がい者スポーツ・文化活動を支援する」及び施策12「だれもが安心して使いやすい施設とするために」について。重点課題の変更により取組内容の範囲が広がっているため、具体的な取組内容を整理する必要がある。 施策13「成年後見制度の周知と成年後見制度利用支援事業の推進」及び施策14「障がい者の権利をまもる」について。制度や権利擁護に関する理解が十分でないことが課題であり、目標値達成に向けた取組を進めてほしい。 計画全体について、グラフや説明の配置が分かりづらいため、内容を理解しやすい構成に改善してほしい。また、主な取組について目標値を設定することで、進捗確認や評価につながる。
議長	こども部会及び啓発部会の内容について意見交換はあるか。
川野委員	こどもの相談で活用されているLINE相談の仕組みを、障がい者の相談にも活用できるよう検討してほしい。
事務局	検討する。
荻野委員	成年後見制度について計画内で盛り込んでいただきたい。
粕谷委員	障がい者が日頃から地域との交流を深めることは、災害時の助け合いや支援体制の構築につながるため、地域とのつながりや交流の重要性について計画に盛り込んでどうか。
議長	自治会については、極めて厳しい状況の場合があるため、どのように計

発 言 者	発 言 内 容
市村副主幹	面に盛り込むかは十分に考えていただきたい。続いて、次第4その他について事務局より説明をお願いする。
議長	(1)「令和7年度障害者就労施設等からの調達実績等について(報告)」について、資料5に基づき事務局より説明。(2)「次回の入間市障害者福祉審議会について」について、事務局より説明。
黒古委員	委員から何かあるか。 調達については、さらに増やすことができないか、障がい者施設への依頼について改めて検討する必要がある。庁舎の清掃など、対象となる業務を拡大することも可能ではないか。
議長	議論の中で、障がい者自身が行う取組について意見が出たことは大変重要である。ボランティア活動や避難訓練への参加など、これまでの計画にはなかった視点であり、障がい者自身が主体的にアクションを起こすことについて、ぜひ計画に盛り込んでほしい。
	次回 8月25日(火) 午後3時～ C棟 5階 501会議室
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和 8 年 8 月 5 日 議 長 の 署 名 <u>今井 英雄</u> 議長が指名した者の署名 <u>萩野 亨</u>	

